

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-324623

(43)Date of publication of application : 25.11.1994

(51)Int.Cl. G09B 19/00
G06F 15/21
H04M 11/00

(21)Application number : 05-113569

(71)Applicant : DAIWAGIN SOGO SYST KK

(22)Date of filing : 17.05.1993

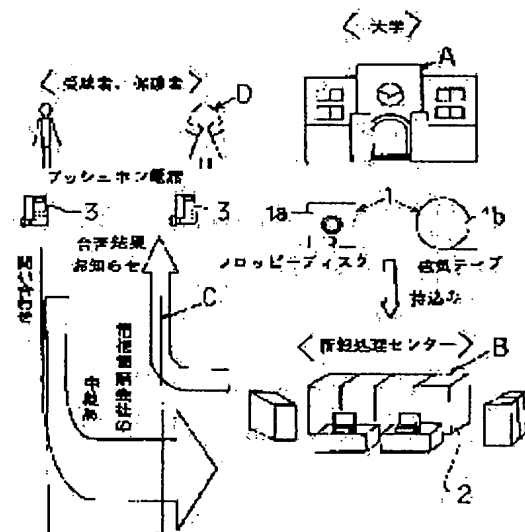
(72)Inventor : NAGAYABU KATSUMI

(54) ENTRANCE EXAMINATION PASS-FAIL INQUIRING METHOD

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the entrance examination pass-fail inquiring method which enables a pass-fail result to be inquired through telephone and guarantees the reliability of the inquiry contents by the university authorities, and is short in calling wait time at the time of the telephone inquiry.

CONSTITUTION: Examinee individual information including pass-fail data, etc., which is generated by the university authorities is inputted to a host computer 2 installed in an information processing center B, this host computer 2 can be accessed from everywhere in Japan by using a push-button telephone set 3, and a pass-fail result is answered through an audio response device in response to even access by push-button operation is answered. The numbers of examinees to which access right is assigned in respective time zones are previously given deviation values and then examinees who actually access the host computer in the respective time zones are made uniform in number.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 17.05.1993

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2734336

[Date of registration] 09.01.1998

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

09.01.2001

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-324623

(43) 公開日 平成6年(1994)11月25日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 9 B 19/00	G			
G 0 6 F 15/21	Z	8724-5L		
H 0 4 M 11/00	3 0 1	7470-5K		

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 13 頁)

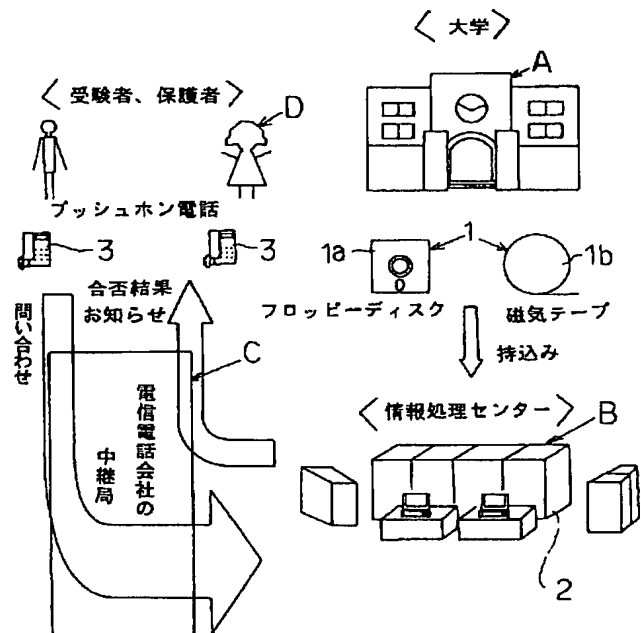
(21) 出願番号	特願平5-113569	(71) 出願人	392035880 大和銀総合システム株式会社 大阪府大阪市中央区瓦町1丁目4番8号
(22) 出願日	平成5年(1993)5月17日	(72) 発明者	永蔵 克美 大阪府大阪市中央区瓦町1丁目4番8号 大和銀 総合システム株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 柳野 隆生

(54) 【発明の名称】 入学試験合否照会方法

(57) 【要約】

【目的】 合否結果を、電話を通じて照会することができ、しかもその照会内容の信頼性も大学当局によって保証されており、更に電話照会時の通話待ち時間も少ない入学試験合否照会方法を提供せんとするものである。

【構成】 学校当局 (A) が作製した合否データ等を含む受験者個別情報が、情報処理センター (B) に設置されたホストコンピュータ (2) に入力されており、このホストコンピュータ (2) には日本全国からのプッシュホン電話 (3) を用いたアクセスが許可されており、且つプッシュボタン操作によるアクセスに対して合否結果を音声応答装置を介して応答するようにしたシステムを構成し、各時間帯にアクセス権を割りつける受験者数に予め偏差を与えておくことで、各時間帯毎に実際にアクセスされる受験者数を平均化したことを特徴としている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 学校当局が作製した学部、学科、受験番号及び合否データ等を含む受験者個別情報が、適宜記録媒体を介して情報処理センターに設置されたホストコンピュータに入力されており、このホストコンピュータには中継局を介して一般公衆回線が接続されて、日本全国からのプッシュホン電話を用いたプッシュボタン操作によるアクセスが許可されており、且つ前記プッシュボタン操作による一般公衆回線からのアクセスに対して照会者の合否結果を音声応答装置を介して応答するようにした全体システムを構成し、

前記受験者個別情報には学部、学科、受験番号及び合否データ等と共に各受験者のアクセス許可日時を受験者総数及び各受験者の特性並びに受験者の活動時間帯の傾向、回線の混雑状況等の変化要因を配慮して登録しておき、各時間帯にアクセス権が割りつけられる受験者数に予め偏差を与えておくことで、各時間帯毎に実際にアクセスされる受験者数を平均化してなる入学試験合否照会方法。

【請求項2】 受験者個別情報に登録するアクセス許可日時にはアクセス開始日時のみを登録しておき、アクセス許可開始日時以降であれば何時でも各受験者による初アクセス又は再アクセスを許可してなる請求項1記載の入学試験合否照会方法。

【請求項3】 日本全国の複数箇所に、ホストコンピュータとの間を専用通信回線又は交換回線で結ばれた中継局を設置し、当該中継局を受験者が一般公衆回線を經由してアクセスするアクセスポイントとしてなる請求項1又は2記載の入学試験合否照会方法。

【請求項4】 受験者個別情報に受験者固有のパスワードを登録しておき、このパスワードとホストコンピュータへのアクセス時に打ち込むパスワードとを照合することで本人確認を行い、合否照会の許可、不許可を判断を下してなる請求項1、2又は3記載の入学試験合否照会方法。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 本発明は学校や予備校（以下、予備校も学校の中に含めて記述する）の入学試験の合否結果を、合否結果が掲示された現地に赴くことなく電話を通じて照会することができ、且つその照会手順も簡易且つ迅速であり、しかもその照会内容に誤りが存在する懸念もない入学試験合否照会方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 大学入試や高校入試の後には、その入試合否の発表がある。入試合否確認の最も直接的且つ一般的な方法は、受験者や受験者の保護者等が、学校に赴いて学内設置された合否掲示板から自分の受験番号を探し出して確認する方法である。また、一部大学等においては、学内の学生サークル等が電話による合否照会サービ

スを提供している場合もある。しかしながらこれら確認方法にはそれぞれ欠点があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 例えば学内設置された掲示板から自分の受験番号を探し出す方法では、各種交通機関を乗り継いで現地にまで赴く必要があるうえに、掲示板に掲示された小さな番号を雑踏の中で識別することは容易ではなく、番号を見落としたりあるいは誤認したりする問題がある。特に有名大学等の場合、受験者は日本全国に散在するため、地方在住者にとってはその交通費や現地到達までの時間は大きな負担となっている。そして合格に自信のあるものにとっては上記労力を費やす価値はあるものの、そうでないものにとってはこのような合否確認は苦痛を伴うものであった。

【0004】 一方、電話による合否照会サービスは便利ではあるものの、この種のサービスは大学当局によって公認されたものではなく、したがって照会データの出所も大学当局から直接提供された一次情報ではないことから、その照会情報そのものに対する信頼性に疑問があるうえに、電話受話器を通じての口頭での互いのやりとりであることから、受験番号の聞き違い等もあり、その照会内容の信頼性が保証されているとはいえない。

【0005】 本発明はかかる現況に鑑みてなされたものであり、合否結果を、現地に赴くことなく電話を通じて照会することができ、且つその照会手順も簡易であり、しかもその照会内容の信頼性も大学当局によって保証することができ、更に通話待ち時間の発生も少なく迅速に合否結果を照会できる入学試験合否照会方法を提供せんとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明者は上記課題を解決するにあたって、鋭意検討した結果、次のような結論を得た。即ち、電話による合否照会という基本的態様そのものは近隣地又は遠隔地の区別なく日本全国何処からでも手軽に問い合わせることが可能であるという利点があるものの、従来の電話による合否照会には信頼性の観点から問題がある。したがって、この信頼性を向上する手段があれば電話による合否照会という基本的態様そのものは踏襲することができる。

【0007】 そこで、電話照会でありながら、信頼性を高める手段について鋭意検討した結果、次の着想を得た。まず、合否情報は大学当局から直接提供を受け、且つ合否照会事業自体を大学当局からの委託事業となして大学当局の監督下で行うようにすること。次いで、受験者からの合否照会の内容を正しく認識するために、受験者からの問い合わせをプッシュホン電話を用いたプッシュボタン操作によるものとする。プッシュホン電話を用いるのはプッシュホン電話はPBトーンの発生が可能であり、このPBトーンをホストコンピュータによって認識させることにより照会者の意思を正確にホストコ

ンピュータに伝達できるためである。一般家庭に普及している現状装置でこのような正確な信号発生が手軽に成しえる装置としては現在はプッシュホン電話しかないが、将来的には家庭内に常備されるであろう通信機能を内蔵したパソコンを用いることも当然考慮される。また、プッシュホン電話を用いたプッシュボタン操作により発信された受験者からの問い合わせ情報を正しく理解するとともに、正確な照会データを即座に提供し、且つ間違いを犯しやすい人手の介在を排除するために、問い合わせ内容の認識から回答までの全ての作業をコンピュータによって行うこと。そして、照会データの受験者への応答は、受験者側に特別な装置を設ける必要がなく、且つコンピュータによる応答を受験者が即座に理解できるようにするために音声応答装置を用いること。更に、電話照会という態様を採用する限り避けることのできない問題であるところの、特定時間に電話が集中して回線がパンクしたり通話待ち時間が多く発生するという現象を避けるために、予め問い合わせが許可される日時を、各受験者毎に決めておくこと。

【0008】本発明は以上の着想を有機的に結合させることによって完成されたものであり、以下の構成を有している。即ち、学校当局が作製した学部、学科、受験番号及び合否データ等を含む受験者個別情報が、適宜記録媒体を介して情報処理センターに設置されたホストコンピュータに入力されており、このホストコンピュータには中継局を介して一般公衆回線が接続されて、日本全国からのプッシュホン電話を用いたプッシュボタン操作によるアクセスが許可されており、且つ前記プッシュボタン操作による一般公衆回線からのアクセスに対して照会者の合否結果を音声応答装置を介して応答するようにした全体システムを構成し、前記受験者個別情報には学部、学科、受験番号及び合否データ等と共に各受験者のアクセス許可日時を受験者総数及び各受験者の特性並びに受験者の活動時間帯の傾向、回線の混雑状況等の変化要因を配慮して登録しておき、各時間帯にアクセス権が割りつけられる受験者数に予め偏差を与えておくことで、各時間帯毎に実際にアクセスされる受験者数を平均化したことを特徴としている。

【0009】受験者個別情報に登録するアクセス許可日時の設定態様としては様々な態様が考慮されるが、例えばアクセス許可開始日時のみを規定しておき、このアクセス許可開始日時を基準にして一定時間の間だけアクセスを許可することや、あるいはアクセス許可開始日時以降であれば何時でも自由に再アクセスできるようにすることが考えられる。

【0010】また、受験者はホストコンピュータの設置場所に対して直接アクセスしてもよいが、受験者の通話料金負担を軽減する観点からは、日本全国の複数箇所に、ホストコンピュータとの間を専用通信回線又は交換回線で結んだ中継局を設置しておき、当該中継局を受験

者が一般公衆回線を通じてアクセスする態様となすことが好ましい。

【0011】更に、他人が特定個人の合否内容を入力することを禁じる目的から、受験者個別情報に受験者固有のパスワードを予め登録しておき、ホストコンピュータへのアクセス時にはパスワードの打込みを要求するようにしてもよい。

【0012】

【作用】このような、入学試験合否照会方法は次のようにして運用される。まず、大学当局が合否結果情報を含む受験者個別情報を作製する。この受験者個別情報には、学部、学科、受験番号及び合否データ等を最低限含むファイルとして構成されており、必要に応じてパスワード等も記録されている。この受験者個別情報は入学願書に記載された情報を元にして作製されるもので、当該ファイルは入学後の在学学生を対象として作製される在学学生基本マスタファイルと連動させる場合もある。

【0013】この受験者個別情報は、通信回線を経由して、あるいは適宜記録媒体に記録した形態で、情報処理センターに設置されたホストコンピュータに入力される。

【0014】合格発表日が到来すれば、受験者は、大学当局によって予め指定されている日時あるいは指定日時以降に、合否発表センターとしての機能を担うホストコンピュータに対してプッシュホン電話を用いてアクセスする。このアクセスは通常のテレホンサービスと同様、センターからの操作案内に従ってプッシュボタン操作を行うことによってなすものである。センターからの回答は音声応答装置による人工音声によってなされ、合否照会を終えた受験者は確認用のボタンを押して一連の合否照会操作を終えるものである。

【0015】また、中継局が全国各地に複数箇所設置されている場合は、受験者はホストコンピュータの設置されているセンターへ直接アクセスするのではなく、中継局に対してアクセスを行う。

【0016】

【実施例】次に本発明の詳細を図例の実施例に基づき説明する。図1は本発明の入学試験合否照会方法の全体システムの概略を示した説明図である。以下述べる実施例では、学校として大学を対象とした場合について述べるが、本発明は、高校や予備校等へも適用できることはいうまでもない。本システムは、学校当局Aが作製した学部、学科、受験番号及び合否データ等を含む受験者個別情報1が、適宜記録媒体を介して情報処理センターBに設置されたホストコンピュータ2に入力されており、このホストコンピュータ2には中継局Cを介して一般公衆回線が接続されているとともに、この一般公衆回線の終端には受験者又は受験者の保護者（以下、受験者及び受験者の保護者を総称して受験者と称す）の家庭内や公衆電話ボックスに設置されたプッシュホン電話3が接続さ

れて構成される。

【0017】学校当局が作製する受験者個別情報1には、受験者氏名、受験番号、受験学部、受験学科等のデータとともに合否データが登録されている。受験者個別情報1は合否判定を行う当事者である学校当局自身が作製する一次情報そのものであるからその信頼性は完璧である。受験者個別情報1は、フロッピーディスク1aや磁気テープ1b等の記録媒体の形態で情報処理センターB（以下、センターBと称す）に持ち込まれる。記録媒体としては、光磁気ディスクや不揮発性大容量ICカード等を用いることも勿論可能であり、いずれを用いるかはデータの格納容量等や取扱い容易性等を配慮して決めればよい。また、記録媒体による情報伝達に代えて、専用通信回線を通じて学校から情報処理センターに受験者個別情報1を伝達することも考慮されるが、専用通信回線の敷設費用や回線維持費用が必要となることを考えれば、記録媒体をセンターBに持ち込む形態が最も現実的である。

【0018】センターBにはホストコンピュータとなる汎用コンピュータが設置されており、学校当局から受け取った記録媒体を当該コンピュータにセッティングすることで、外部からの問い合わせに対して音声応答装置を介して回答できるように構成されている。ここではセンターBは、学校当局Aから委託を受けた情報処理会社であることを前提にして話を進めるが、センターBは学校内に設置することもでき、学校当局AがセンターBを直接運営することもできる。また、ホストコンピュータ2も大型メインフレーム等に限定されず、ミニコンピュータやワークステーション、更にはパソコン等を利用することも考慮される。

【0019】中継局Cは「NTT株式会社」に代表される電信電話会社に特設される交換局であり、当該中継局CとセンターBとは専用通信回線で接続されている。

【0020】受験者等が操作するプッシュホン電話3はPBトーンの発生が可能な機種であれば適宜使用可能であり、家庭内設置されたもの及び公衆電話も対象としている。

【0021】図2は受験者とセンターとの間の情報経路のより具体的な態様を示す説明図である。総合大学や主要大学等では受験者は全国に散在していることから、全ての受験者が例えば大学所在地に設置した中継局にアクセスようにした場合、地方在住の者にとって通話料金の負担が大きくなるうえに、全ての問い合わせが単一の中継局に集中すると、よほど多くの回線を確保しておかない限り、回線パンクや通話待ち時間が多発するおそれもある。図2はこのような事態に対処すべく、東京と大阪にそれぞれアクセスポイント6, 6を設けた場合を示している。アクセスポイント6, 6にはそれぞれ音声応答装置が設置されており、当該音声応答装置はセンターに設置された制御コンピュータ5によって専用通信回線を

介して制御されている。また、各アクセスポイント6, 6には受験者からの多数の同時アクセスに対して余裕をもって対処できるように数十本の通話回線を用意している。このように複数のアクセスポイント6, 6を設置した場合、受験者は通話料金の安いアクセスポイント6に対してアクセスを行い、当該アクセスポイント6を経由してセンターに格納されている受験者個別情報に関するデータベース（受験者情報データベース4）にアクセスする。アクセスした結果は、音声応答装置により、人工音声の形で受験者に知らされる。

【0022】図3は、大学当局が作製した合格者リストである受験者個別情報ファイルが磁気テープ1b又はフロッピーディスク1aの形態でセンターに持ち込まれて、センターのホストコンピュータに格納されることによって、センターのホストコンピュータ上に受験者情報データベース4が構築され、且つこの受験者情報データベース4に対して受験者Dがアクセスして合否情報を得る工程を簡易に表現したものである。ホストコンピュータに構築される受験者情報データベース4には、図例の如く、受験番号欄、氏名欄、合否結果欄とともに確認欄が設けられており、受験者からの合否問い合わせが終了しているか否かをチェックできるようにしている。そして、合否問い合わせが完了していない未確認者一覧表7を定期的にアウトプットして大学に提供するものである。

【0023】受験者からセンターに対する問い合わせはプッシュホン電話を用いたプッシュボタン操作によって行われ、センターから受験者に対する応答は人工音声によって行われるが、その具体的手順は例えば図4で示される。図4の内容を簡単に説明すると次の如くである。
①まず、受験者がセンターに電話を架けてセンターを呼び出すと、センターから受験番号の入力が要求されるので、受験者は受験番号をプッシュボタン操作により入力する。

②次いで、センターは受験番号の確認を要求してくるので、受験者はこれに対する確認をプッシュボタン操作によって行う。

③本人確認がなされると、センターは合否結果を知らせるとともに、合格の場合には入学手続きに関する案内も合わせて行う。

④合否結果を知った受験者はプッシュボタン操作による確認操作を行った後、電話を切る。

尚、④の確認操作がなされなくとも、通話途中で回線異常が発生したり、あるいは応答がない状態で一定時間経過したならば、センター側から回線切断を行うものとする。これは、合格者は喜びのあまり確認操作を忘れることが予想されるし、また不合格者は失意のあまり確認操作を忘れることが予想されるためである。

【0024】受験者のプッシュボタン操作及びセンターからの音声応答の具体的手順の最も基本的なものは上述

したとおりであるが、例えば図5で示されるような他の態様も考慮される。この例では、受験者に対し、1部又は2部の区別、学部及び受験番号の入力要求を行うとともに、受験者に対し本人確認用のパスワードの入力要求も行うようにすることで、合否結果情報が当事者以外に不用意に洩れないように工夫している。入学願書に受験者が自分のパスワードを自由に選択して記入するようにしておけば、任意の数字をパスワードとして採用することも可能であるが、ここでは誕生月日をパスワードとして用いている。

【0025】以上は、受験者の問い合わせ手順の概略であるが、受験者からの問い合わせに対して何ら制約を施さない場合、合否結果を一時でも早く知りたいと思う受験者からの問い合わせが、合否照会業務のサービス開始直後に集中して、回線パンクを起こしたり、通話待ち時間が大幅に長くなったりすることが懸念される。本発明はこのような事態を回避するために次のような工夫をしている。

【0026】この方法は、各受験者の電話によるアクセス許可日時を、学部、学科、受験者番号及び合否データ等と一緒に前記受験者個別情報に予め登録しておき、受験者に対しては入学試験会場等で予め各受験者のアクセス許可日時を知らせておく方法である。各受験者のアクセス許可日時は、受験者総数及び各受験者の特性並びに受験者の活動時間帯の傾向、更には回線の混雑状況等の変化要因を配慮して決定するもので、各受験者のアクセス権を特定時間帯に制限することで、各時間帯毎に実際にアクセスされる受験者数を平均化し、このことにより回線パンクや通話待ち時間の増加を回避せんとするものである。

【0027】アクセス許可日時の設定方法としては様々な態様が考慮されるが、例えば図6に示すような、a、b、c、dの各態様が採用可能である。図において網かけ部分が照会可能時間を示し、他方、空白部分は照会拒否時間を示している。また、図中▽はアクセス開始許可時刻を示し、▼はアクセス許可終了時刻を示している。

- a) アクセス開始時刻のみを指定する方法。
- b) アクセス終了時刻のみを指定する方法。
- c) アクセス開始時刻及びアクセス終了時刻の両方を指定する方法。
- d) アクセス開始時刻及びアクセス終了時刻の両方によって指定されるアクセス許可時間帯を複数帯設けること。

【0028】このように、受験者からのアクセス許可時間帯の規定方法は様々な態様が考慮される。これら規定時間内であれば該当受験者からの照会に応じ、他方、該当外の受験者に対しては、「現在はあなたの照会時間ではありません。照会時間にあらためてお架け直してください。」とか、「あなたの照会時間は、〇〇時～〇〇時です。照会時間にあらためてお架け直してください。」等の

メッセージを流したのち、センター側から回線遮断するようにしている。

【0029】また、規定された時間帯内におけるアクセスは、初アクセスのみを許可して再アクセスは禁止する方法と、再アクセスを許可する方法とがある。回線パンクや通話待ち時間の増大を回避する観点からは前者が管理しやすいが、受験者の心理を考慮すると後者の方が好ましい。即ち、合格者は合格の再確認と合格の喜びを噛みしめる目的で再アクセスしたいと思うのが自然であるうに、受験者から合格を知らされた保護者も自分でも合格を直接確認したいと思う場合もあり、このような受験者や保護者の要求に対応するためには、規定時間内であれば何度でも再アクセスが可能であるようにすることが好ましい。そして、このような態様を採用する場合、前記aのパターンが最も適している。

【0030】b、c、dのパターンはいずれもアクセス終了時刻を規定しているために、受験者はアクセス終了時刻迄しか再照会は許可されないとの焦りから、短い規定時間帯内に集中的に再アクセスすることが予想される。このように短い規定時間帯内に同じ受験者からの再アクセスの頻度が高まると、回線数に制限があることから当然のことながら他の受験者の初アクセスが制限されることになって、一時でも早く合否結果を知りたいと思う受験者の要求に応えられなくなる。

【0031】これに対して、aのパターンであれば、アクセス終了時刻は制限されていないので、初アクセスを終えた受験者は再アクセスを余裕をもって行うことが予想され、再アクセスの一時集中はなく、再アクセスは分散させられるので好ましい。

【0032】このように、アクセス開始時刻のみを規定し、且つ再アクセスに対して制限を行わないことが、受験者へのサービスという観点からは好ましく、また、再アクセスを無制限に許可する場合は、その終了時刻を規定しないことが回線パンクや通話待ち時間の増大を回避する観点からは好ましいことがわかるが、このようなアクセス許可体系を採用した場合、各時間帯にアクセス権を付与された受験者数の割りつけが極めて重要となってくる。

【0033】「表1」は各時間帯への受験者の割りつけ（受験者配分の最大数）の一例である。この実施例では、「大阪局」と「東京局」の2ヶ所のアクセスポイントを設け、「大阪局」には大阪①、②、③の3つの電話番号を用意し、他方、「東京局」には東京①、②の2つの電話番号を用意し、各受験者に対して前記いずれかの「局」へのアクセス権を予め与えておく。各受験者をいずれの「局」に割りつけるかは受験者の在住地を考慮して決める。照会時間は朝7時～夕方5時までとし、この時間内を1時間単位で管理し、それぞれの時間帯に受験者を割りつける。それぞれの時間帯に割りつけられた個々の受験者は、指定された時間帯から照会が可能とな

り、この時間帯以降は再照会も許可されることになる。
例えば、受験番号1701番～3400番の受験者に対しては「大阪①」の電話番号が指定され、午前8時～9時の間が照会可能時間であるとして通知しておく。該当受験者にとっては上記時間が一応の照会可能時間帯であるが、この時間帯以降の再照会はいつでもできるように

なっている。尚、実際には受験番号1701番～3400番の受験者の中には東日本在住の受験者もいるから上記例通りとはならない。

【0034】

【表1】

<受験者配分の最大数>

	大阪①	大阪②	大阪③	東京①	東京②
7時	1,700	1,700	1,700	1,200	1,200
8時	1,700	1,700	1,700	1,200	1,200
9時	1,000	1,000	1,000	900	900
10時	1,100	1,100	1,100	900	900
11時	1,100	1,100	1,100	800	800
12時	1,100	1,100	1,100	600	600
13時	800	800	800	600	600
14時	800	800	800	600	600
15時	1,100	1,100	1,100	800	800
16時	0	0	0	0	0
17時	0	0	0	0	0
合 計	10,400	10,400	10,400	7,600	7,600
総計	46,400 名				

【0035】「表1」において重要なことは、各時間帯に割りつけられる受験者数の最大数に偏差を与えていることである。例えば「大阪①」について見れば、朝7時～8時には1700人を割りつけているのに対し、9時～10時には1000人、更に昼の13時～14時には800人しか割りつけていない。これは、朝7時～8時に1700人を割りつけてはいるものの、勉強のため就寝時間が深夜に及ぶ受験者が実際にこの時間帯に照会してくる確率は50%程度であると予測され、したがって予測照会受験者数は800人～1000人の範囲内に収まると予測されるからである。これに対して9時～10時に1000人を割りつけているのは、9時～10時であれば、受験者のほとんどが起床しており、したがってこの時間帯であれば80%～90%程度の受験者が実際に照会することが予想されるためである。また、昼の13時～14時の割りつけ人数を800人に設定しているのは、この時間帯であれば、割りつけられた受験者のほとんどすべてが照会することが予測されるうえに、この

時間帯は一般企業の電話連絡が活発であるため、回線バンクの可能性が高く、このことを考慮して割りつけ人数を少なめに設定している。また16時以降は受験者を割りつけていないが、これは夕方には再確認のための再アクセスが急増することが予想されるうえに、受験者から合格報告を受けた保護者が喜びを噛み締めるために、家族団欒のなかで照会することかなりの確率で予測されるからである。

【0036】このように、受験者の活動時間帯の傾向や回線の混雑状況等の変化要因を配慮して図7に示すように各時間帯に割りつける受験者人数に偏差を与えておくことによって、各時間帯における実際の照会人数を平均化することが可能となり、その平均照会人数を、図中破線で示される「予想平均照会人数」に近づけることができる。尚、「大阪局」と「東京局」とで割りつけ人数に差を与えているのは、関西人の性格や関東人の性格差を配慮しているためである。ここでは、受験者の割りつけ要因として受験者の活動時間帯の傾向、回線の混雑状

況、受験者出身地の性向等に着目したが、他の要因に着目することも可能であり、例えば出身高校の性格等を配慮してもよい。

【0037】このような、アクセス開始日時、アクセス終了日時や合否結果は受験者個別情報ファイルに格納されている。各受験者個別情報は例えば、図8で示されるようなレコード構成を有するものが採用できる。受験者個別情報ファイルは本合否照会システム専用となすこともできるが、入学後に在学生を対象として作成する在学管理情報ファイルにリンクさせたり、あるいは当該受験者個別情報ファイルをベースにして在学基本マスタファイルを作成することもできる。

【0038】

【発明の効果】本発明によれば、受験者は現地に赴くことなく合否結果を電話で簡単に知ることができる。合否結果は音声応答装置を介して行われるのでその内容は特別な注意をはらわなくても確実に認識できる。また、照会はプッシュホン電話を用いたプッシュボタン操作によって行うので、照会者の意思を間違えることなく正確に伝達することができ、しかも操作も容易である。そして、合否結果情報は大学当局自身が作成した一次情報に基づいているからその信頼性は完璧である。

【0039】また、各受験者のアクセス許可日時を受験者総数及び各受験者の特性並びに受験者の活動時間帯の傾向、回線の混雑状況等の変化要因を配慮して各時間帯に割りつけられる受験者数に予め偏差を与えているため、各時間帯に実際にアクセスされる受験者数を平均化させることができ、回線パンクや長時間に及ぶ通話待ち等が発生することなく、迅速且つ確実に合否結果を知ることができる。

【0040】また、アクセス許可開始日時以降であれば何時でも各受験者による初アクセス又は再アクセスを許可した場合は、合否を再確認や喜びを噛み締める目的で再アクセスを行いたいという受験者の要望に応えることができる。

【0041】日本全国の複数箇所、アクセスポイントを設けた場合は、受験者の通話費用の負担が大きく軽減

する。

【0042】また、ホストコンピュータへのアクセス時にパスワードの打ち込みを要求するようにした場合は、該当受験者以外の者が不正に合否情報を入手することを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の入学試験合否照会方法の全体システムの概略を示した説明図

【図2】 受験者と情報処理センターとの間の情報経路のより具体的な態様を示す説明図

【図3】 大学、情報処理センター及び受験者相互間の情報の授受の様子を示す説明図

【図4】 受験者のプッシュボタン操作と当該操作に対応する情報処理センターの応答の具体的内容の一例を示す説明図

【図5】 受験者のプッシュボタン操作と当該操作に対応する情報処理センターの応答の具体的内容の他の例を示す説明図

【図6】 アクセス許可日時の設定方法を示す説明図

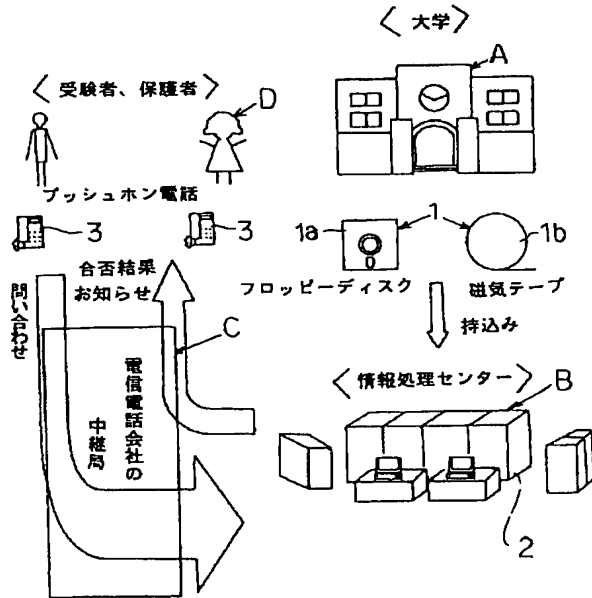
【図7】 各時間帯への受験者の割りつけ態様を示すグラフ

【図8】 受験者個別情報ファイルのレコード構成の一例を示す説明図

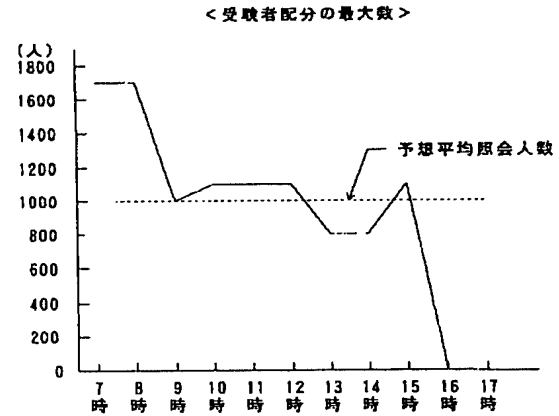
【符号の説明】

- A 学校当局
- B 情報処理センター
- C 中継局
- D 受験者
- 1 受験者個別情報
 - 1a フロッピーディスク
 - 1b 磁気テープ
- 2 ホストコンピュータ
- 3 プッシュホン電話
- 4 受験者情報データベース
- 5 制御コンピュータ
- 6 アクセスポイント
- 7 未確認者一覧表

【図1】



【図7】

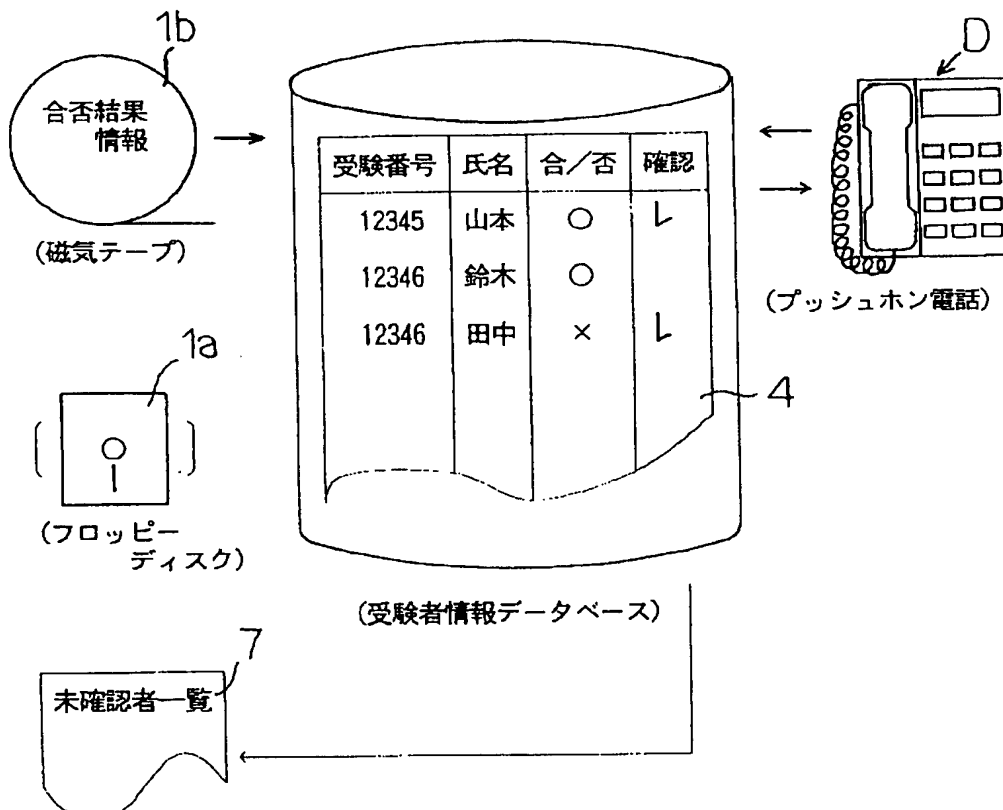


【図3】

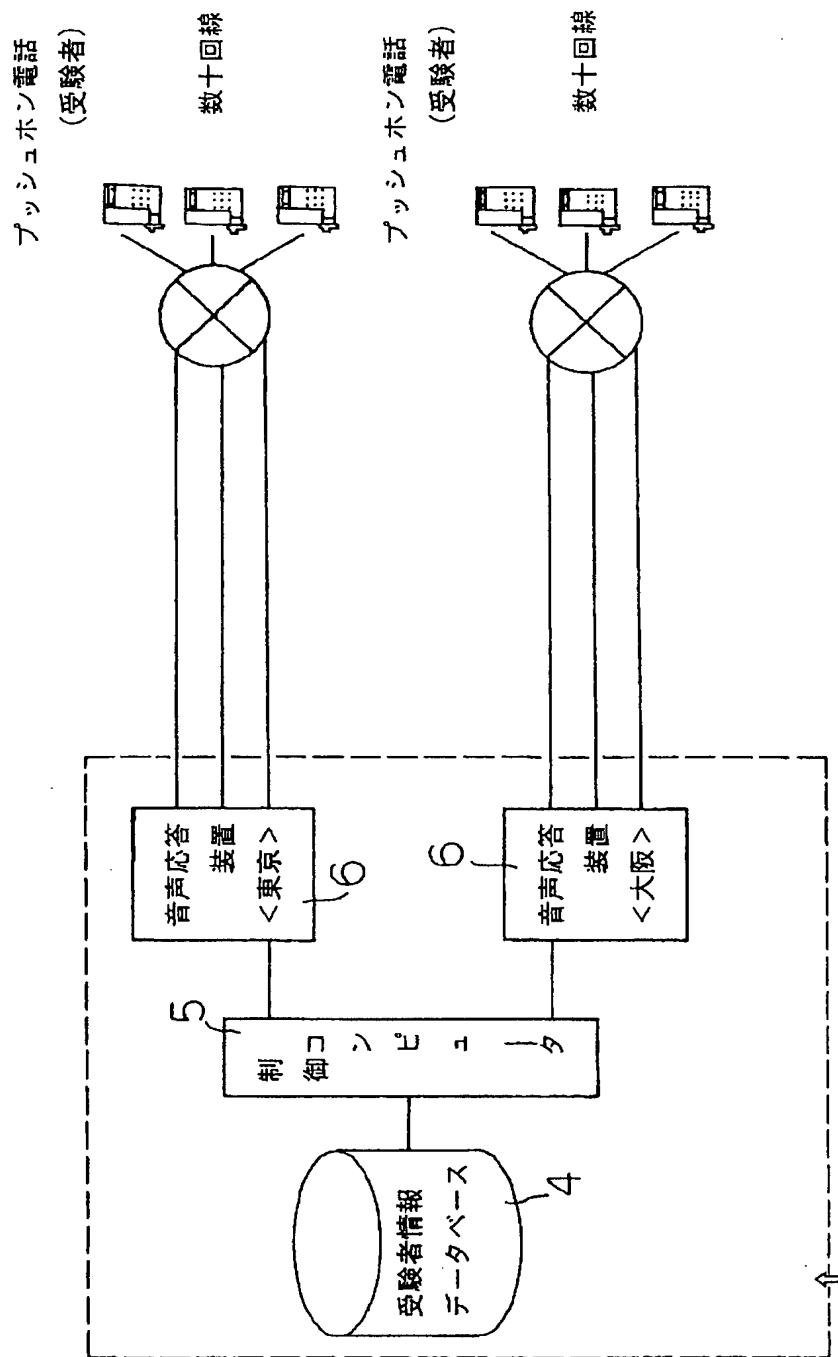
<大学>

<情報処理センター>

<受験者>

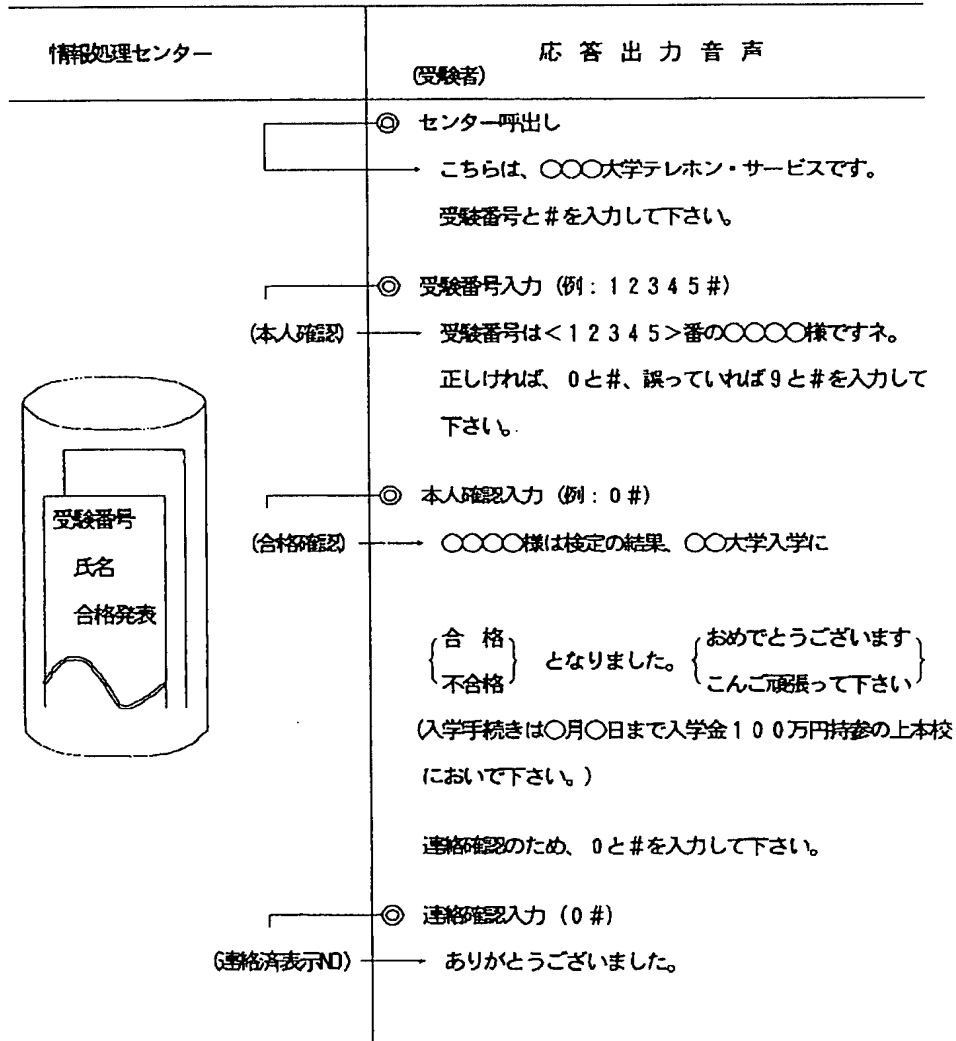


【図2】



受験者リスト持込み（磁気テープ持込み）

【図4】



【図5】

オペレーション	音声出力内容
センタ呼び出し (接続) ⇒A	こちらは〇〇大学テレホンセンタです。
部、学部 受験者番号#	あなたの受験した部、学部、受験番号と#をピッという合図音につづいて連続して押してください。ピッ
	そのまま、お待ちください ピッ ピッ ピッ・・・
⇒B	<div> <div> <div>1部</div> <div>2部</div> </div> <div> <div>〇〇学部</div> <div>△△学部</div> </div> </div> 受験番号××××番 [〇〇〇〇様] ですね。 正しければあなたの誕生月日と#を、間違っていれば6と#をピッという合図音に続いて連続して押してください。ピッ
誕生月日# または 6#(9#) (6#はAへ) (9#はBへ)	ピッ ピッ ピッ・・・
⇒C	<div> <div>〇〇〇〇様</div> <div>あなた</div> </div> は <div> <div> <div>1部</div> <div>2部</div> </div> <div> <div>〇〇学部</div> <div>△△学部</div> </div> <div> <div>〇〇学科</div> <div>△△学専攻</div> </div> </div> <div> <div>に合格です。</div> <div>に補欠合格です。</div> </div> 残念ですが、不合格です。
	繰り返します
	<div> <div>〇〇〇〇様</div> <div>あなた</div> </div> は <div> <div> <div>1部</div> <div>2部</div> </div> <div> <div>〇〇学部</div> <div>△△学部</div> </div> <div> <div>〇〇学科</div> <div>△△学専攻</div> </div> </div> <div> <div>に合格です。</div> <div>に補欠合格です。</div> </div> 残念ですが、不合格です。
(9#はCへ) 連続要求指示 (1#はAへ)	なお併願学部の照会は1と#を押して下さい。 ピッ (7秒間入力無しは回線遮断)

【図6】

	照会時間指定方法	照会可能時間（概念図）
a	開始時刻のみ指定（▽）	
b	終了時刻のみ指定（▼）	
c	開始／終了時刻とも指定。 （▽） （▼）	
d	開始／終了時刻とも指定。 （▽） （▼） 且つ、二度目は開始時刻のみ指定	

（網かけ部分が照会可能時間。空白部分は照会拒否（時間外））

